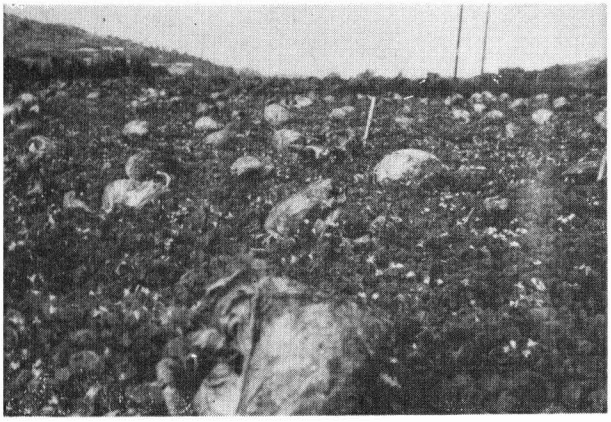
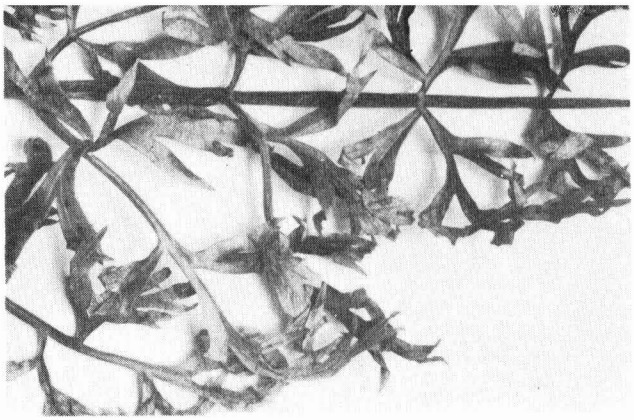
琉球大学学術リポジトリ

写真や図を中心にみる琉球の農作物主要病害虫 (15)

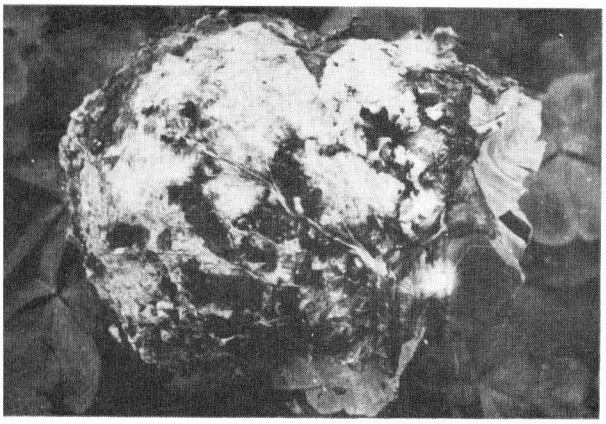
メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学農家政学部
	公開日: 2011-06-21
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 田盛, 正雄, Tamori, Masao
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/20521



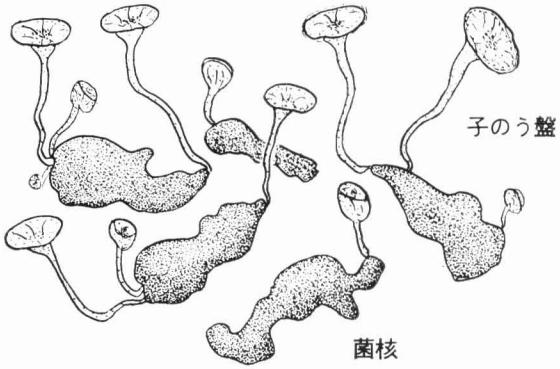
タマナの菌核病が大発生して畑に取残されたタマナ。以前に除去すべきであった。



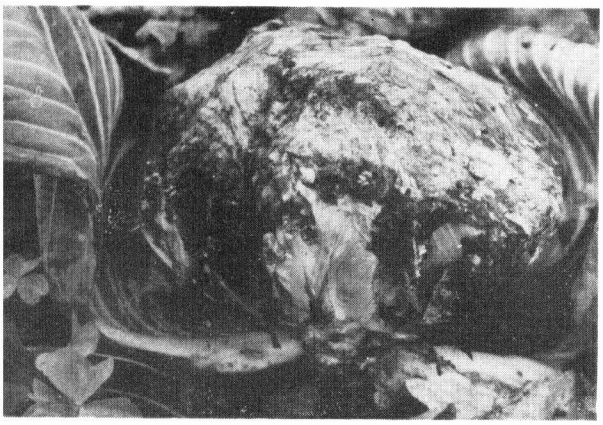
ニンジンの黒葉枯病におかされたニンジンの葉。葉の先がちじれている。



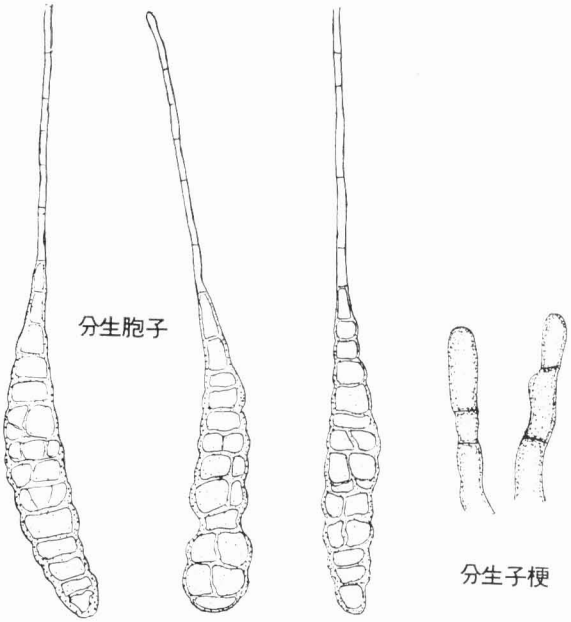
タマナの菌核病におかされて腐ったタマナ。



タマナの菌核病の菌核から子のう盤が発芽したところ。



黒いかたまりは菌核。



ニンジンの黒葉枯病菌。

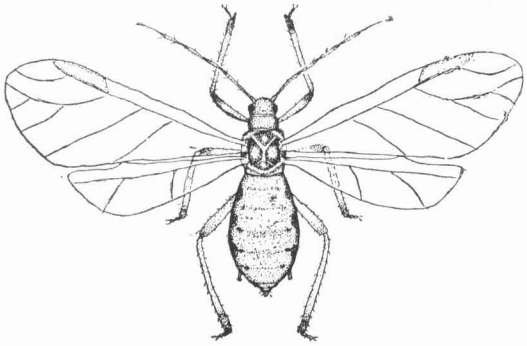
写真や図を中心にみる

琉球の農作物主要病害虫

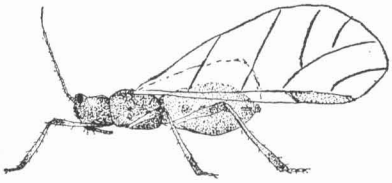
—15—

(15)

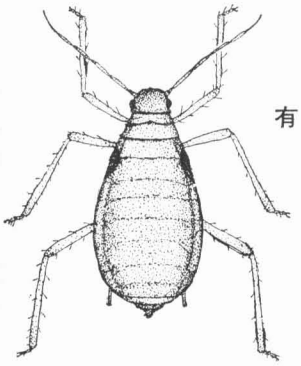
ダイコンアブラムシ

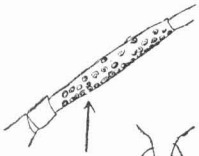


有し形



無し形





有し形触角第3節

有し形尾片

テップでダイコンアブラムシをくじょする少女達

病　害

タマナの菌核病

宿主： 100種類あまりの植物をおかし、とくに、タマナ、ハクサイ、ニンジン、ホウレンソウ、チシャ、キウリ、サツマイモ、ダイズ、タバコ、ジャガイモ、トマト、ナス、エンドウ、インゲン、アズキ、ソラマメなどにいちじるしく発病する。

発生： 琉球では1月から5月頃まで発生する。

病徴： 病気にかかった部分はやわらかくなり、ついで灰色になって、その上に黒いネズミの糞のようなかたまり（菌核）ができる。ひどくなるとタマナ全体が腐敗してやわらかくなる。

病菌： 菌核は数年間生活力をもち、春と秋に菌核から小さなキノコ(子のう盤)を出し、それに胞子ができる。この胞子ができるには、温度と湿度が重要な関係を有し、乾燥しているときはいつまでも胞子ができない。そこで、作物や雑草の下で、しめりがちなところに落ちている菌核がよく発芽して子のう盤を出し、多くの胞子をつくってひろがる。子のう盤は、1 菌核から1－7個生じ、浅いろ斗状で、直径3－4mm。

防除

1，菌核のできないうちに病気にかかった株を畑からとり去る。

1．雑草のく除を十分行なう。

1．畑の内外を清けつにしておく。

1．子のう盤の発生時期に地面にセレサン石灰を反当り2－3Kg散布する。

（10ページにつづく）

（3ページの病害虫のつづき）

ニンジンの黒葉枯病

宿　主： ニンジン

発　生： 琉球では12月から3月頃に発生が多い。

病　徴： 葉と茎に発生する。病はんは小さく、かっ色または黒かっ色で、激発するときは、葉は上面に巻いてちぢまる。ぬれると病はんの表面は黒色のカビ（分生胞子）でおおわれる。

病　菌： 分生子梗は2－3本むらがり、かっ色で頂端はやや淡い。長さ24－105ミクロン、幅6.3－7.7ミクロン。1－5個の隔膜がある。
分生胞子は淡かっ色、こんぼう形、長さ38－119、幅11.9－25.9ミクロン。4－13個の横隔まくと0－12個の縦隔まくとを有する。長頸があり、これはまれに枝分かれする。この病菌は、菌糸または胞子のまま宿主、ことに種子について越年する。

防　除

1. 種子は消毒してからまく。
1. 被害作物は集めて焼きすてる。
1. 旱天で発育がおとろえると発病が多いから、適宜に灌水する。また、肥ぎれしないように注意する。
1. 発生初期から1－2回石灰ボルドー液を散布する。

害　虫

ダイコンアブラムシ

形　態： 成虫は、ハネのあるものとないものとがあり、全体緑色で、白い粉におおわれるのが特徴である。体長1.7ミリメートル。幼虫はハネのない成虫ににているが小さい。

加　害： ダイコン、タマナ、カブ、ハクサイなど各種のアブラナ科植物を加害する。幼虫、成虫ともに葉の裏、茎、花などに寄生し、吸収口をさし込んでその汁を吸収する。

琉球では、特に2月から6月頃に発生が多く、乾燥時には大発生することがある。

防　除

1. リンデン1%粉剤、または0.04%水和剤液を散布する。
1. マラソン1000－4000倍液はとくによくきく。

（田盛正雄）